

第 1 回市立川西病院市民モニター会議 要旨 (7 月 4 日 (木) 開催)

1 市立川西病院の現状について

(1) 患者数の現状等 (市からの説明)

ア 今年 3 月と 4 月の診療科別の患者数 (入院、外来) の状況等の説明

今年 4 月から指定管理者である医療法人協和会による管理運営が始まった。
入院延患者数、外来延患者数については、内科で 3 月末に常勤医 2 名が退職したことが主な要因と考えている。

イ 7 月の外来診療表の説明

外来診療について、整形外科で 4 月から常勤医 1 名の体制。
兵庫医科大学医局からの医師派遣や指定管理者の他病院の医師を活用しながら対応を行っている。
どの診療科においても大阪大学や兵庫医科大学といった関連医局からの医師派遣や指定管理者の他病院の医師を活用したり、人材紹介会社からの紹介を受けたりして、これまでとほぼ変わらない体制で外来診療を行っている。

(2) 病院見学 (指定管理者の説明)

病院内 5 階から始め、指定管理者及び病棟師長等から簡単な各病棟、外来部門の説明を行った。主な説明は、下記のとおり。

ア 5 階北病棟 (緩和ケア病棟)

床 (茶系色) ・壁クロス等を家庭に居るような雰囲気にするため、色や材質を工夫し、床は物を落としても響かないようにしている。
広い談話室があり、毎月ここで、季節のイベント等を行う。(ベッドも搬入できる)

イ 5 階南病棟 (平成 30 年 11 月から地域包括ケア病棟)

急性期を脱した患者が、自宅に帰る準備を整えたり、リハビリを行ったりと、自宅に帰るための準備期間として看護を行っている。退院後、施設に入所や自宅へ帰る方、入退院を繰り返す方など様々な方が利用している。

ウ 4 階南病棟

急性期病棟、内科・外科系、整形外科・泌尿器科などの患者を受け入れている。手術後の患者が多いので、一番忙しい病棟になる。主に男性患者が多い、循環器内科で心臓カテーテル処置をしている患者は、女性患者も含まれる。
ほぼ満床状態で、病状が落ち着いた患者や退院が近い患者は、地域包括ケア病棟へ転棟している。

2 市立川西病院に関する意見及び提案等に関する意見交換について

委員から、主に3点について、利用者の視点からご意見をいただいた。

(1) 病院見学について

地域包括ケア病棟について等、見学して、初めて知ったことも多かった。

見学時には、色々な設備を確認して、直接、医療スタッフから状況について話を聞くことができ、医療スタッフが、患者に手厚いケアをしておられことも分かったので、もっと病院の良いところを積極的にPRして、皆に知ってもらう方がよいのではないか。

(指定管理者)

これまで、PRの指摘をいただいている。4月以降、ホームページについて新しく変更していく予定であったが、いまだに市から指定管理者制度移行する前の情報が残っており、現在、随時更新をかけている。

本日皆様から評価をいただいた地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟のことなども改めて広報していきたいと思う。また、直接お伝えする手段として、出前講座なども利用していきたい。

(2) 看護体制について

看護体制が縮小して職員のモチベーションが下がってないか心配していたが、活気のある看護現場を見て安心した。

しかし、看護職員の頑張りだけにいつまでも頼ることのないよう、体制整備に努めて欲しい。

ア 看護師の募集が出ていたが、身分は協和会の職員か。市の職員か。

また、賃金の差はないのか。

(事務局)

指定管理者の職員で、協和会が募集している。

現在、病院職員は、協和会の職員である。元市職員であった職員は、今後3年余りは、給与差額の保障をする。4月以降採用されている職員は、協和会の職員であるので、差額保障はない。

イ 看護基準が7対1から10対1になったので、看護師に負担がかかっていると思われるが、その実態はどうか。

(指定管理者)

5月に10対1に変更した。現在、整形外科の常勤医が1名になり、手術後の経過観察の患者が減っていることから急性期の患者が減少している。

看護体制の変更により、看護師の負担は多少増えているが、患者に大きな影響がでていないのではないかと考えている。

(委員)

もう少し様子を見る必要はあるだろうが、看護師の声をしっかりと受け止めてもらいたい。

(指定管理者)

看護師からも早く7対1に戻して患者さんの看護にあたりたいと聞いている。救急が減っているわけではないので、早い段階で戻して行きたい。

(事務局)

指定管理者制度に移行して、慌ただしい4月を乗り越え、看護師全員で話をし、本日説明した体制を作ってきている。外来や手術室の看護師が、自主的に病棟へ応援に行っていると聞いている。

(委員)

先ほどの病院見学で、看護師からの生の声を聞いた。看護現場は懸命に頑張っているが、それにいつまでも甘えることなく、何等かの体制をとってあげるようにしてほしい。それが、患者に返ってくると思う。今の気持ちを忘れずに、頑張っていたきたい。現場の声を聞いて、安心した。

ウ 病院の雰囲気は以前と違い、活気があるように感じる。

(事務局)

そのことは事務局としても感じている。おそらく3月までは、指定管理者制度移行に伴い、まとまった職員が病院を離れていくなど、不安な気持ちがあったと思う。

4月以降様々な困難を乗り越えることで、職員同志の絆も深まり、頑張っていくというブレない気持ちが湧いてきたのではないかと、少し前に看護部長とも話していた。

(委員)

いつまでこのモチベーションを維持できるかが重要である。職員の頑張りを生かすよう努力してほしい。そして市立川西病院に行きたいと言われるような、開業医から多くの患者を紹介してもらえようという評判の病院にしていきたい。

(3) 地域貢献について

もっと病院が、地域に溶け込んで地域貢献を行うことで、「病院も頑張って変わろうとしている」と思ってもらえるのではないか。

ア 市内の民間病院は、診療内容などの情報が郵送されてくるなど、色々な事をしている。また、各地域コミュニティの福祉ネットワーク会員になって、地域に溶け込んでいる。そういうこともやってみたら「病院も頑張って変わろうとしている」と思ってもらえるのではないか。

(指定管理者)

ご協力させてもらえることがあるか検討していく。

※ 委員からは、他の意見も含め、改善ができそうなものは、早急に対応をして欲しいとのご意見をいただいている。